

「選択・集中」で成長

日本鑄造

JFEグループの日本鑄造が、選択と集中による成長戦略を推進している。中国勢が追い上げる中、同社では独自の低熱膨張材「LEX（レックス）」シリーズに代表される高付加価値分野を追求しつつ、中国メーカーとも提携して委託生産品を日本市場で販売するなど協調路線もとる。9月1日で創立100周年を迎える同社の鷺尾勝社長に現状と展望を聞いた。

「新型コロナウイルス 体製造装置や鋳山機械は自動車関連や工作機 世間ほどの落ち込みは減っている半面、半導 G）に対応する露光装

社長 鷺尾勝氏



置のフレーム、鋳山機械では超大型油圧シヨベルやダンプトラックの部材・部品の受注が伸びている」

「エンジンアリング 熱膨張材」を粉体化事業も高架橋の支承や伸縮装置で高速道路会社の需要がある。高度

「LEXシリーズ

成長期に建設された高速道路や橋梁を長寿命化する更新工事が増えている。交換がしやす

く、同時に耐震性とい

つた機能も高める製品を開発して提案し、受注につなげている」

「看板のLEX（低

高付加価値を追求 中国と提携も

は、低熱膨張合金として知られるスーパーインバー（鉄・ニッケル・コバルト合金）よりも熱膨張係数が小さく、熱変形に起因する精度誤差を解消する材料として半導体露光装置やウエハー研磨装置の構造部材に使われている。3D積層造形により、複雑形状の部品レベルまで高精度・短納期で製作できるようになった」

「中国の鑄物メーカーとのアライアンスについて。」

「2017年に鑄鉄で中国最大の邯鄲市恒工冶金機械（河北省）と戦略的パートナーシップ契約を結び、含めても、日本に比べ市場向け連続鑄造材のコスト的に国内生産が委託生産を拡大している。19年には新興の鑄鉄メーカー、山東宇信（山東省）へ技術指導を始めた。中国の次

の100年を切り開く」

「含めても、日本に比べ市場向け連続鑄造材のコスト的に国内生産が委託生産を拡大している。19年には新興の鑄鉄メーカー、山東宇信（山東省）へ技術指導を始めた。中国の次の100年を切り開く」

構造改革を経て収穫期へ

記者の目

鑄物は、一品料理も多職人の世界。4年前に就任した鷺尾社長は積極的な設備投資で自動化を推進。生産管理システムも導入して仕事を「見える化」した。その結果、棚卸し資産が圧縮され、リードタイムも短縮。構造改革はほぼ目算通りという。

100周年の爽りに期待したい。

（横浜総局長・青柳一弘）